

研究員 の眼

AI 関連ファンドの人気は短命かも？ ～2018年5月の投信動向～

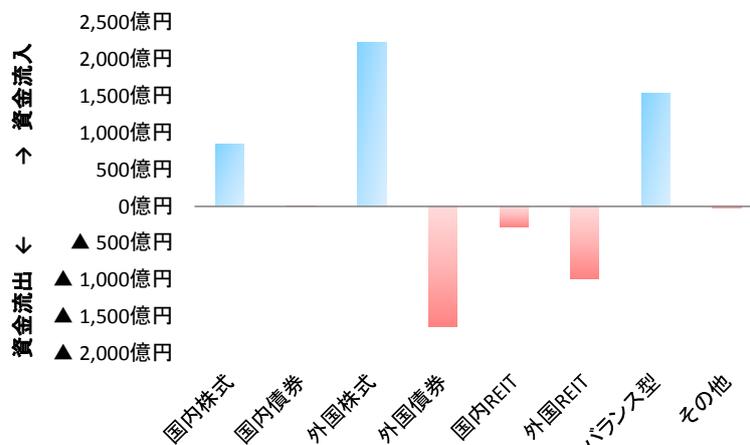
金融研究部 研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

バランス型の資金流入が増加

2018年5月の国内公募追加型投信（ETFを除く）の推計資金流出入をみると、国内株式、外国株式、バランス型への資金流入が続いた【図表1】。流入金額は、国内株式が900億円弱、外国株式が2,000億円強であり、4月と同程度の流入であった。バランス型については、資金流入が1,500億円を超え、4月の900億円弱から流入額が増加した。その一方で、外国債券、国内REIT、外国REITからは資金流出が続いた。特に、外国債券からは1,500億円を超える資金流出があった。

バランス型の資金流入増加の要因の一つには、隔月分配のファンドの人気が高まったことが挙げられる。5月は大型の新規設定ファンドが無かったにもかかわらず、バランス型の隔月分配ファンドには300億円を超える資金流入があり、4月の200億円から増加した。隔月分配だけでなく、毎月分配のバランス型ファンドへも、2ファンドを中心に350億円程度の資金流入があった【図表2：赤字】。外国債券や外国REITでは毎月分配型ファンドの大型解約が続いているが、バランス型の毎月、隔月分配ファンドへの資金流入は継続しており、高頻度の分配金へのニーズは引き続き高いといえるだろう。

【図表1】2018年5月の国内公募追加型投信の推計資金流出入



(資料)Morningstar Direct を用いて筆者集計。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表2】2018年5月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社	5月の推計純流入	純資産5月末時点
1位	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	三井住友トラスト・アセットマネジメント	439 億円	1,029 億円
2位	日本厳選割安株ファンド2018-04(線上償還条件付)	三井住友トラスト・アセットマネジメント	227 億円	415 億円
3位	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	アセットマネジメントOne	201 億円	3,107 億円
4位	三井住友・げんきシニアライフ・オープン	三井住友アセットマネジメント	179 億円	768 億円
5位	グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	161 億円	318 億円
6位	UBS中国新時代株式ファンド(年1回決算型)	UBSアセット・マネジメント	161 億円	535 億円
7位	スマート・ファイブ(毎月決算型)	日興アセットマネジメント	142 億円	2,389 億円
8位	新興国ハイクオリティ成長株式ファンド	アセットマネジメントOne	137 億円	2,494 億円
9位	東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	東京海上アセットマネジメント	133 億円	3,845 億円
10位	JPMザ・ジャパン(年4回決算型)	JPモルガン・アセット・マネジメント	132 億円	1,224 億円

(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。

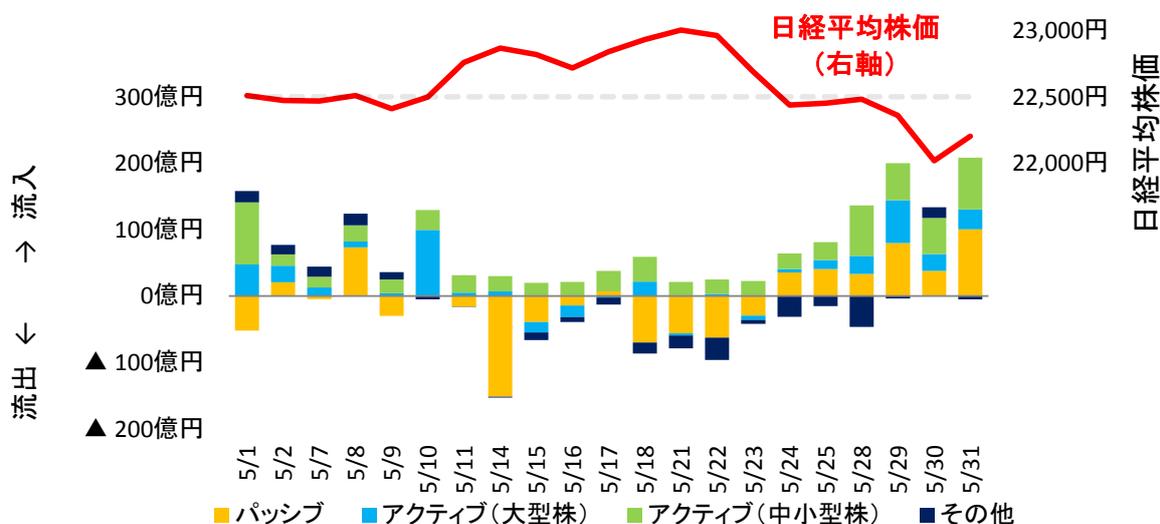
日経平均 22,500 円が意識される国内株式

国内株式の 900 億円弱の資金流入のうち、750 億円程度が中小型株アクティブ・ファンドへの資金流入であり、引き続き中小型株アクティブ・ファンドの人気が高かった。5 月は昨年秋の設定以来、大規模な資金流入が続いている「JPM ザ・ジャパン(年 4 回決算型)」に加えて、「三井住友・げんきシニアライフ・オープン」も 100 億円以上の資金を集めた【図表 2：青字】。「三井住友・げんきシニアライフ・オープン」は 2000 年に設定されたいわば古株ファンドである。4 月に格付投資情報センター社が毎年行っている調査で表彰されたことがきっかけに、投資家の注目が集まったものと思われる。

また、5 月はパッシブ・ファンドからの資金流出が 100 億円と 4 月の 140 億円から比べてやや鈍化した。ただし、日経平均が 22,500 円を超えた 9 日から 23 日にかけては、資金流出が顕著であった【図表 3：黄棒】。特に 14 日には 1 日で 150 億円以上の資金が流出し、9 日から 23 日までの累計で 450 億円を超える流出した。その一方で、株価が下落して日経平均株価が再び 22,500 円を下回った 24 日以降は一転して資金が流入し、流入金額は累計で 300 億円を超えた。

パッシブ・ファンドの資金フローから、5 月は「日経平均株価 22,500 円」が多くの投資家に意識されていたことが分かる。日経平均株価が 22,500 円を超える水準では積極的に購入する投資家は少なく、逆に利益確定売りに動く投資家が多かったようだ。

【図表3】国内株式ファンドの日次推計資金流入と日経平均株価の推移



(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。

高パフォーマンスでも関心が薄らぐ AI 関連ファンド

5月にパフォーマンスが良好であったファンドを見ると、外国 REIT のファンドが総じて良好であった。5月は後半に欧州の政治問題から投資家のリスク回避姿勢が強まり、米国の長期金利が低下した。この米国の金利低下を好感して、米国 REIT が大きく上昇したためである。特に、ヘルスケア REIT の上昇が大きく、5月の収益率は9.5%となった【図表4：赤字】。

その他、米国株式は市場全体で見ると小幅な上昇であったが、一部のハイテク関連株や中小型株などは大きく上昇したため、それらの恩恵を享受できたテーマ株ファンドやアクティブ・ファンドも高パフォーマンスであった。「グローバル AI ファンド」【図表4：青字】に代表される「AI（人工知能）」に関連するテクノロジー系のテーマ株ファンド（ここでは単純にファンド名に「AI」が含まれているファンドとする。以後、AI 関連ファンド）の多くが5%を超える収益率を上げ、総じて好調であった。

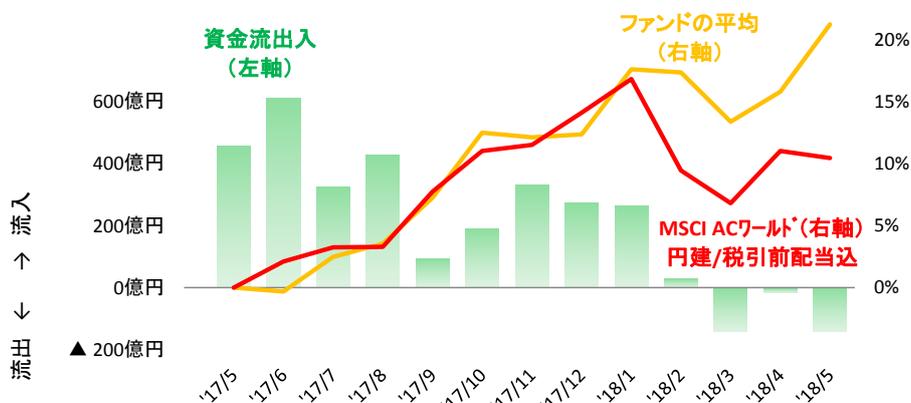
「AI」は、2017年に人気を集めたテーマであった。足元1年のAI関連ファンドの資金動向を見ると、大型の新規設定が無かったにもかかわらず2018年1月までは資金流入が続いていた。しかし、2月に資金流入が止まり、3月以降は流出基調となった。5月もパフォーマンスは良好であったが、140億円ほど資金流出した。2月以降のAI関連ファンドの資金フローから見ると、投資家の関心はAI関連ファンドから離れていることがうかがえる。「AI」はこれから実社会に浸透していくテクノロジーであるため、息の長い投資テーマになると思われたが、投資家の関心は移ろいやすく、AI関連ファンドのブームは思ったよりも短いかもしれない。

【図表4】2018年5月の高パフォーマンス・ランキング

ファンド名	運用会社	5月の収益率	過去1年収益率	純資産 5月末時点
1位 東京海上・グローバルヘルスケアREITオープン(毎月決算型)	東京海上アセットマネジメント	9.5%	-10.9%	20億円
2位 企業価値成長小型株ファンド	アセットマネジメントOne	8.8%	42.2%	76億円
3位 厳選ジャパン	アセットマネジメントOne	8.1%	---	28億円
4位 IPOリサーチ・オープン	三菱UFJ国際投信	7.8%	---	112億円
5位 USバイオ・ベンチャー(限定追加型)	ペイビュー・アセット・マネジメント	7.1%	58.8%	108億円
6位 グローバルAIファンド(為替ヘッジあり)	三井住友アセットマネジメント	7.0%	23.5%	481億円
7位 世界eコマース関連株式オープン	アセットマネジメントOne	7.0%	---	507億円
8位 ブラックロック米国小型成長株式オープンAコース(為替ヘッジなし)	ブラックロック・ジャパン	6.7%	21.8%	21億円
9位 グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(限定為替ヘッジ)	アセットマネジメントOne	6.6%	28.1%	707億円
10位 明治安田米国中小型成長株式ファンド	明治安田アセットマネジメント	6.6%	29.0%	55億円

(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。2018年5月末残高10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

【図表5】AI関連ファンドの資金流入と累積収益率の推移



(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。2018年5月の資金流入は推計値。外国株式のテーマ株ファンドで名前に「AI」を含む10ファンドを集計。収益率は月初純資産加重平均値。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。